

2025年3月改定

# マクハル施工方法



1  
ウエスにパーツクリーナーを浸み込ませ、ホイールのリムテープとビード部を脱脂します。  
現段階ではAGILISTとGP5000はタイヤの脱脂が必要です。タイヤの裏面とビード部をしっかり脱脂してください。



2  
バルブの根元のゴム部を脱脂してからマクハルを塗りホイールに装着します。ここに塗ることで、バルブからのエア漏れを防ぐことができます。



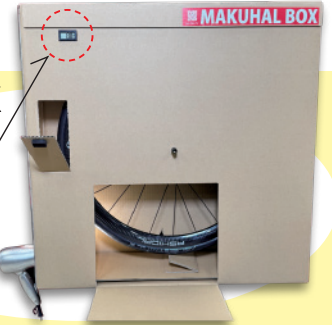
3  
ホイールにタイヤを装着してビード部をセンターに落とします。

4～9はマクハルBOXを使うことをおすすめします。BOX内はドライヤーの熱で温度が47度に保つことができるためきれいな膜が張り施工時間も短くなります。

浴槽の中でタイヤを温めるとマクハルBOXで施工したのと同じ効果があります。動画2025年3月「浴槽で施工しました。」を参考にしてください。

マクハルBOX  
温度計つき

ドライヤー  
(1200W)



4  
バルブコアを外し専用シリンジ(ヌキトル)でマクハル120ml(ロード25Cの場合)を充填します。グラベル38Cは240ml・MTBは300mlをめやすにしてください。



5  
バルブコアを付けホイールを一回転させます。ビードからマクハルがにじみ出てきたら、タイヤをつかみピチャピチャとビード部を浸します。全周浸ったことを確認します。



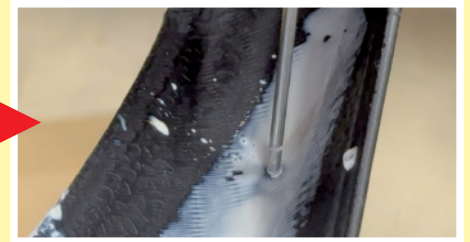
6  
空気を入れてビードを上げます。マクハルが飛び散るので注意してください。  
CO2ポンペは使わないでください。



7  
ビードを上げたらタイヤをドライヤーで温めながらBOXの中心の軸をゆっくり(1周15秒程度)回します。速く回すとマクハルに泡が入り、弱い膜になってしまいます。



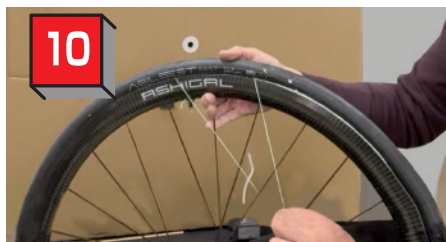
8  
デジタル温度計が47度上がったらヌキトルでマクハルを抜き取ります。MTBは47度上がった時点でBOXから出し、マクハルが温かいうちに左90度にゆっくり傾けマクハルがタイヤの左側面全体に浸るようにゆっくり揺らします。右も同じようにします。その後マクハルを抜き取ります。



タイヤの底に溜まった抜き取れないマクハルはヌキトルの先端を平らな方に換えてゆっくり抜き取ってください。



9  
マクハルを全て抜き取ってから新しいコアを付けフロアポンプで空気を入れて完成です。コンプレッサーを使うときは必ず水抜きをしてください。



10  
タイヤに付いたマクハルは乾いてから剥がすと簡単に取れます。

マクハル施工・施工後にCO2ポンペは使わないでください。

	入れた量	入れた量と抜き取った量の差
ロード25C	120ml	およそ16ml
ロード28C	120ml	およそ21ml
グラベル38C	240ml	およそ30ml
MTB	300ml	およそ35ml

